

知って当たり前 介護ガイド帳



上原真光

また値上がりだ。厚労省が、65歳以上の介護保険料が12年度に月額5200円程度（現在は4160円）になるとの試算結果を発表した。

月1000円のアップ。たかが1000円と思うだろうが、年金から有無を言わず天引きされる高齢者はたまったものではない。

「もっと若けりゃ、国会へデモに行くのだけど、杖をついたり、車いすではデモもできないよ」

先日、ある高齢者が言っていた。

10年前に介護保険制度が始まった時は、月額2911円だった。2012年度に値上げになると、保険料は1.8倍に増えることになる。介護保険というと、政府が必ず持ち出してくるのが、高齢者人口の増加だ。現在、65歳以上は2900万人だが、15年後の2025年には3600万人（人口の30%）を超えという。今年7.3兆円だった

65歳以上の保険料値上げ、たまったもんじゃない！



介護保険給付費は、20兆円になると試算している。

ふむふむ、と読み流してはいけません。65歳以上は確かに700万人も増える。でも、なぜ給付費が3倍増なのか。巨大な介護ビルでも建てるのだろうか。

現在、要介護・支援の認

定を受けている65歳以上は、6人に1人しかいない。09年の認定者数は約475万人で、6人に5人は一生懸命に働き、家族を守り、国に忠誠を誓い、納税し、高齢になった今も独力で暮らしている。その人たちに「もう1000円」と一体誰が言えるのか。

いずれにせよ、ニッチもサッチも行かないから利用者負担を増やすらしい。菅首相は「持続的な社会保障制度を構築する」と言っていたが、自分たちのことは自分で守れ、では話にならない。

（全国介護者支援協議会会長）